

## 独思録：「ニュージーランド地震」(2/27)

今泉 蓮

平成二十三年二月二十二日朝、ニュージーランドの第二の都市クライストチャーチで地震が発生、地震の規模はマグニチュード 6.3、震源はクライストチャーチから南東に 10 キロの地点であった。テレビでは日本人語学留学生が被災したこともあり、多くの時間を割き連日大きく伝えている。ニュース編集者は事実の客観的真相を忠実に伝えるというよりも視聴者のために「感じを出す」ことの方により多く熱心である。それで自然損害の一番ひどい局部だけを捜し歩いて、その映像を大きく画面一杯に並べ立てるから、視聴者の受ける印象ではあたかもクライストチャーチ全市並びに附近一帯が全部丸潰れになったような風に漠然と感ぜられるのである。視聴者を欺すという悪意は少しもなく、しかも結果において視聴者を欺すのがテレビのテクニックなのであろう。

クライストチャーチ大聖堂や語学学校「キングス・エデュケーション」の周りにはテレビ局の報道陣が大勢集まって中継をしている。慌ただしい救助活動の際の足手纏（あしでまと）いで邪魔になる記者さん達が生存率 72 時間の時を殺すためにここに寄っているのかと想像をしてみたくなるほどである。

クライストチャーチ大聖堂や語学学校「キングス・エデュケーション」の入っているビルの崩壊を見ていると、実際天柱（てんちゅう）は摧（くだ）け地軸も折れたかと感じられる。中心部から北西 15 キロとは離れない空港から市内に向かう道路沿いには被害を受けた建物は見当たらないとのことである。天然は実に正直なものである。クライストチャーチ市一帯は、英国からの移民によって町の建設が始まった 19 世紀まで、エイボン川沿いに広がる沼地だった。このため 19 世紀半ばに建設が始まった大聖堂は、地盤の改良などを経て完成したのは約 40 年後だったという。被災地の所々が液状化によって冠水したのは、この辺りがもともと沼地だったことが背景にあるとみられている。

テレビの画面を視ると、語学学校「キングス・エデュケーション」のエレベーターホールの部分だけが平気であるのに眼についた。エレベーターホールの部分が平気であるのに、教室の入っている部分が滅茶滅茶に毀（こわ）れ落ちていた。和田東京工業大教授（建築構造学）によると、ビルの中で、残ったエレベーターホールの部分だけ強度が高いというアンバランスな構造のため、この部分を中心にしてビル全体がねじれるように揺れて弱い部分が崩落した可能性があるという。同じ地震国である日本、対岸の火事（地震）とせず



< 参照 > 寺田寅彦「静岡地震被害見学記」